

総合啓開と救出救助活動の連携強化 (救出救助・総合啓開分科会)

令和3年度救出救助・総合啓開分科会の活動について

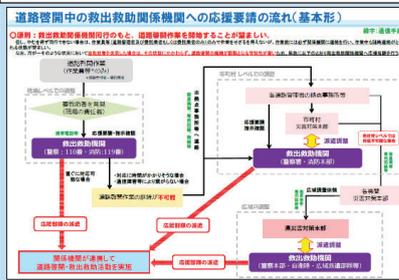
令和3年度は、救出救助・総合啓開分科会を2回開催し、**道路啓開中に要救助者を発見した場合の救出救助関係機関との連携のとりまとめ、分科会で取り扱う新たな課題の選定**を行った。

第7回 (R3第1回) 分科会 (書面開催)

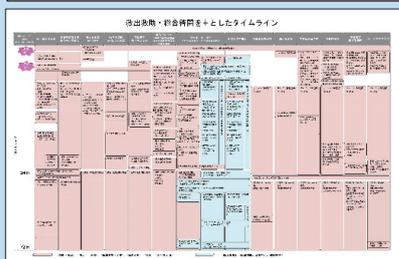
【第7回 (R3第1回) 分科会】

- 時期: 令和3年9月 (書面開催)
- 議題: (1)「道路啓開中に要救助者を発見した場合の対応」のとりまとめ (応援要請の流れ、連絡先、必要な報告内容等)
- (2)救出救助・総合啓開を主としたタイムラインの更新

(1)「道路啓開中に要救助者を発見した場合の対応」のとりまとめ



(2)【タイムラインの更新】



第8回 (R3第2回) 分科会

【第8回 (R3第2回) 分科会】

- 時期: 令和4年3月23日
- 議題: ・取り扱う新たな課題の選定
- ・令和4年度の予定について

【取り扱う新たな課題】

津波湛水区域における救出救助・総合啓開 (避難・救出方法、救出後の搬送先を広域的観点から検討)

長期湛水の背景

国土庁国土地理院「重ねるハザードマップ」

- ▶ 人口密度の高、関東、濃尾、大平野は水害頻発(繰り返し)、淹溺水位上昇、その他の河川氾濫により、土砂が蓄積した沖積層で形成されている。
- ▶ 地震があれば、沖積層のため液状化危険度は高く、地盤沈下も生じる。
- ▶ 関東平野は高層ビルが密集し、それら沿道沿川にびっしりと建物が密集(密集層)で下層は空洞化している。
- ▶ 地下水の浸透により地盤沈下が生じている。
- ▶ 洪水・高潮・津波等の浸水があれば低地で水が溜り、浸水状態が長期続く。
- ▶ 湛水区域の人口は関東18万人、濃尾9万人、大平野36万人、面積は関東164km²、濃尾236km²、大平野244km²。人口密度は関東が最も高く、湛水地域は濃尾が最も高い。

長期湛水地域における考え方

- ▶ 湛水地域には2区、4市、2町、1村が含まれる
- ▶ 上記地域に120万人在住
- ▶ 電気、水道等のライフラインも長期間停止
- ▶ 通信インフラの停止
- ▶ 孤立避難者の生活環境悪化
- ▶ 医療機関も被災孤立
- ▶ 救出救助手段の制限

国土交通省国土地理院「重ねるハザードマップ」で作成

◆分科会構成機関

- 【構成員】
- ・陸上自衛隊第10師団
 - ・航空自衛隊
 - ・第1輸送航空隊
 - ・海上保安庁
 - ・第四管区海上保安本部
 - ・中部管区警察庁
 - ・愛知県警察本部
 - ・愛知県
 - ・名古屋市
 - ・日本赤十字社愛知県支部
 - ・中部ブロック
 - ・DMAT連絡協議会
 - ・中部経済産業局
 - ・名古屋港管理組合

【オブザーバー】

- ・国土地理院
 - ・中部地方測量部
 - ・東海総合通信局
 - ・名古屋地方気象台
 - ・中部運輸局
 - ・中部地方環境事務所
 - ・東海北陸厚生局
 - ・愛知県医師会
- 【アドバイザー】
- ・名古屋工業大学 渡辺研司教授
- 【事務局】
- ・中部地方整備局

<令和4年度の取り組み内容>

①「津波湛水区域における救出救助・総合啓開」についての演習を実施

⇒令和4年度第1回分科会(9月頃予定)にて、「津波湛水区域における救出救助・総合啓開」についての演習を実施。

※演習形式はDIG(=Disaster Imagination Game 参加者が地図を囲み、書き込みながら議論するゲーム)を想定。

②演習によって明らかになった課題への対応

⇒令和4年度第1回分科会での演習によって明らかとなった課題の抽出、及びその対応について、令和4年度第2回分科会(第4四半期を予定)において報告及び意見交換を実施。

③「救出救助・総合啓開分科会タイムライン(臨時情報)」の見直し

⇒「救出救助・総合啓開分科会タイムライン(臨時情報)」の見直しを実施。